第 190 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録(案)

A. 日時：2008 年 5 月 19 日(月) 15:00～16:20

B. 場所：東京 電気倶楽部

C. 出席者(順不同，敬称略)：

委員長： 穂積(愛工大)

委　員： 伊藤(日本ガイシ)，山崎(日立電線，渡辺委員代理)，小林(日立)，岡本(富士電機アドバウステクノロジー)，中坊(日新電機)，清水(東芝)，本間(電中研)

幹　事： 田中康(武蔵工大)，内田(中部電力)

幹事補： 岡下(昭和電線)，高橋俊(電中研)(記)

以上計 12 名

D. 提出資料

番号なし	第 189 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録(案)	幹事団
190-1	誘電・絶縁材料技術委員会 委員名簿	幹事団
190-2	第 76 回 A 部門研究調査運営委員会 報告	高橋俊幹事補
190-3	電気学会 屋外用ポリマー絶縁材料の表面機能と長期性能調査専門委員会第 8 回議事録(案)	本間委員
190-4	平成 20 年度 誘電・材料研究会，技術委員会，その他行事予定(1 次案)	幹事団
190-5	調査専門委員会フォローシート(2008 年度計画)	幹事団
190-6	平成 20 年度研究会活動補助金計算書	岡下幹事補

E.議事内容

1. 議事録の確認，承認

内田幹事より第 189 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録(案)の報告があり，承認された。なお，議事録の内容に関連して，以下の事項が確認された。

・「絶縁診断に基づく・・・調査専門委員会」の委員として，JFE および出光より参画頂いた。

・秋田の研究会は秋田大学の先生と開催についての合意は得られており，11 月後半に実施する方向で，穂積委員長にて調整することとした。

・未発刊の技術報告については，幹事団を中心として状況把握に努めることとした。

2. 名簿確認

資料 190-1 が確認された。修正事項等あれば，岡下幹事補まで各自連絡することとした。

3. 第 76 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会 報告

資料 190-2 に基づき，高橋俊幹事補より報告された。活動資金報告書の提出については，高橋俊幹事補にてフォローすることとした。

4. 「屋外用ポリマー・・・調査専門委員会」第 8 回議事録(案)について

資料 190-3 に基づき，本間委員より報告された。次回技術委員会に解散報告書(案)を提出し，審議することとした。また，次期委員会は本間委員を委員長とする方向で調整中との

報告があった。

5. 平成 20 年度 誘電・絶縁材料研究会，技術委員会，その他行事予定(1 次案)

資料 190-4 に基づき，田中康幹事より説明があり，以下の事項が確認された。

・11 月の研究会，テーマから「空間電荷」を除外することとした。

・3 月の研究会，テーマの「ポリマーがいし」を「表面・界面」と変更することとし，担当委員に本間委員を追加することとした。

・3 月の全国大会シンポジウム，ナノコン委員会に打診することとした。

6. 調査専門委員会フォローシート(2008 年度計画)

資料 190-5 に基づき，田中康幹事より説明があり，以下の事項が確認された。

・「イオンマイグレーション・・・」，「ナノ構造制御・・・」，「電力機器絶縁診断・・・」，「情報通信・・・」の各調査専門委員会は，技術報告の発刊が終了したため，リストから削除することとした。

・「絶縁診断に基づく・・・」調査専門委員会は 2008 年 4 月に設置され，4 月 11 日に芝浦工大で委員会を実施した旨，報告があった。

・「有機誘電体・半導体の物理・・・」調査専門委員会は，穂積委員長よりフォローすることとした。

・「ナノコンポジット誘電体・・・」調査専門委員会は 5 月 23 日に，「屋外用ポリマー・・・」調査専門委員会は 6 月にそれぞれ委員会を開催予定であることが紹介された。

・「電力設備の絶縁材料から見た・・・」調査専門委員会は 5 月 16 日に委員会が開催されたことが紹介された。

・「高分子材料と放射線・・・」調査専門委員会は 3 月末で解散したことが紹介された。

7. 研究会活動補助金について

資料 190-6 に基づき，岡下幹事補より当技術委員会の研究会開催にあたって 7 万円の補助が電気学会から出ていることが報告された。幹事団にて，「若手研究者」「企業研究者」の投稿を促進するための方策に使用する方向で検討することとした。

8. ISEIM2008 について

ISEIM2008 に関して，以下の議論があった。

・SS セッションへの協力依頼が委員長よりなされ，出席委員からは賛同を頂いた。

・Session chair，Main chair は外国人の In-session invited speaker に依頼し，Co-chair は組織委員会 2 号委員に比較的若手の研究者を紹介頂くことを検討するよう，ISEIM2008 組織委員会に薦めることとした

・SS セッション参加社には感謝状を ISEIM2008 組織委員長名で発行することを検討するよう，ISEIM2008 組織委員会に薦めることとした。

F. 次回委員会

関係者の日程を勘案しながら追って調整することとした。

以上